Newsletter　え～ごがく No.50　日本英語学会

2009年1月31日発行

今回の紙面から（ページと内容）

1　会長挨拶
2　第2回国際春季フォーラムのご案内
　第27回大会のご案内
　（Student）Workshopの企画募集
3　理事会・評議員会より
　編集委員会より
5　大会運営委員会より
　「第6回（2008年度）日本英語学会新人賞」の選考結果
　「第7回（2009年度）日本英語学会新人賞」論文募集のお知らせ
6　「日本英語学会賞」創設の趣旨
　「日本英語学会賞」募集のお知らせ
7　連絡先等変更のご連絡のお願い
8　学生会員の登録について

会長挨拶

会長　原口　庄輔

日本英語学会会員の皆さん、明けましておめでとうございます。われわれの英語学会をさらに発展させて、今年もよい年にしましょう。

われわれを取り巻く厳しい環境を前にして、英語学会を活性化するにはどうすればよいでしょうか。会員の皆様方の経験や年齢などに応じて、異なるアイデアがあり、人毎にいろいろな活性化の方策があると思いますし、実行に移す方法も多種多様だと思います。新春にあたって、各自真剣に考えて、自分なりに学会の活性化を図ってゆきましょう。1600名近くの会員が、めいめい工夫してよいと思う方策を実行に移すなら、全体としてかなりの力になるはずです。是非この1年間、それぞれのやり方でよいと思うことを実行して下さい。

昨年の秋に会長になって、「我が英語学会を発展させるには、どうすればよいか」を折に触れて考えてきました。システムを大幅に変えるには、事務局を新たに立ち上げて1年余りの間では中途半端になってしまいますので、余りプロダクティブではないような気がします。最低限やらなければならないことは、故天野会長の敷いた方針を徹底し、実現を図ることだと思います。

システムを大きく変えようと、余り大上段に構えて気張るよりも、長い目で見て、最も効果が上がりそうなことを3つほど述べたいと思います。

まず第1は、「恋をしよう」ということです。もちろん、人を好きになって恋愛から愛を実らせよう、というような意味あいではないことは明らかでしょう。もっとも、そういうことがあっても、一向に構いませんが。問題なのは恋をする対象です。恋をする対象は、「英語学」という魅力的なヒト（学問）なのです。

私自身は、大学院に合格してからは、英語学に恋をし、英語学を恋人にして、毎日朝起きると、「今日も素敵なあなたとお付き合いできるのは、とても嬉しく、夢のようです」と言い、毎日毎日逢瀬を楽しんできました。夢中になって英語学と付き合ってきましたが、気が付いたら今のようになっていました。

自分の体験に照らして言うと、自分の研究する英語学に恋をして、徹底的に付き合うことは最も幸せなことで、最も実り多いことだと断言できます。会員の皆さんにも是非恋をすることをおすすめします。できれば、院生や学生にも、恋をすることのすばらしさを伝えていただきたいと思います。学生の場合には、恋をするまでは行かないかも知れませんが、少なくとも好きになるように導いていただければと願っています。

第2に効果があると思われることは、「感動を伝えよう」ということです。感動を伝えるということはかなり難しいことで、自分でどんなに素晴らしいと思っていることでも、人に伝えることはなかなかできません。感動を伝えることができれば、それは第1級の教育です。

再び自分のことを引き合いに出すと、若い頃は、突然よいアイデアが閃いた時などは、夢中になって、それに関わる事実や説明できる現象などについてブレインストーミングをしてまとめ、文章にすれば論文が1本書けるという状態にして、明け方の3時か4時頃に一人で乾杯をしたものです。一人で乾杯をすることにしたのは、ある時素晴ら

しいアイデアが閃いて、例のごとく一通りまとめた後で、寝ているカミさんを起こして、「おい、こんなに素晴らしいアイデアが閃いたんだ、すごいだろう」というようなことを興奮して言いました。すると、カミさんは眠い目をこすりながら、「そんなことで起こさないでよ」と言って、すぐまた眠りに就いたことがあったからでした。それ以降、感動を英語学に何の興味も持っていないカミさんに伝えることは無理だとあきらめて、一人で乾杯をし、「これはすごい」と一人で悦に入って、興奮して乾杯を繰り返して明け方眠りに就いたものです。

人に感動を伝えるには、まず自ら感動することです。本当に感動したことであれば、興味を持っている学生や院生には、それほど工夫をしなくても伝わるものです。まず自分で感動することができるように、みずみずしい心を目覚めさせて下さい。そして、その感動を後進に伝えていただきたいのです。

第3に有効なのは、「学育、つまり、自ら学んで、自ら育つ」ということです。教育ももちろん大事ですが、教育というと何となく「上から教えて、育て（てや）る」という面があるような気がします。もちろん幼少の頃や高校生のあたりまでは、教え導く面がかなり重要であることには疑問の余地はありません。しかし、学生や院生のレベルになると、「学育」つまり「自ら学んで、自ら（勝手に）育ってゆく」という面をできるだけ多くするのが、一人前の研究者・社会人になるには極めて有効なことです。「学育」によって自ら主体的に学んだことは、効率も定着率もよく、応用も利き、英語学以外のことにも活用可能になります。もちろん会員の皆さんは、自分なりの「学育」のシステムを無意識のうちに身につけておられることでしょう。その「学育」のシステムを学生や院生に体得させることができるよう指導していただきたいと思います。

「学育」の重要性は、本務校の明海大学の外国語学部では折に触れて説いております。英語学会の会員の皆様にも、是非ともその重要性および後々への大きな影響を認識していただき、後進を導いていただきたいというのが私の切なる願いなのです。

「恋」「感動」「学育」の3つは、長い目で見ると、英語学の研究教育を活性化する上で驚くべき効果をもたらす要素です。それによって、我が日本英語学会が着実に発展することになるように、会員の皆様方には、各自で独自の工夫加え、効果が上がるよう実行していただきたく、衷心よりお願いいたします。

新春に当たって、心を新たにして、共に力強く進んでゆきましょう。

なお、今の事務局は、3月いっぱいで役目を終え、新しい事務局（事務局長・岡崎正男氏（茨城大学））が4月から始動します。新事務局の任期は、実質1年間しかありませんが、会員の皆様方の絶大なるご支援とご協力をお願いします。

第2回国際春季フォーラムのご案内

第2回日本英語学会国際春季フォーラムを以下の通り開催します。同封のプログラムをご覧の上、会員の皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2009年4月25日（土）・26日（日）
場所：奈良女子大学
（〒630-8506　奈良市北魚屋東町）

最新情報は学会ホームページの「International Spring Forum（国際春季フォーラム）」の部分でご確認下さい。

第27回大会のご案内

第27回大会は次の通り開催される予定です。

日時：2009年11月14日（土）・15日（日）
場所：大阪大学（豊中キャンパス）
（〒560-8532　大阪府豊中市待兼山町1-5）

会員の方は奮って研究発表にご応募下さい。応募締め切りは**4月1日（水）24時（必着）**です。なお、第26回大会より**応募規定が大幅に改定されました**ので、応募される方は新規定（学会ホームページに掲載されています）をご確認のうえ，遵守されるようお願いいたします。

第27回大会においても「親と子の部屋」を設置いたします。詳細は、今後学会ホームページや7月末発行のニューズレターでご案内いたします。

(Student) Workshopの企画募集

シンポジウムが大会運営委員会の企画であるのに対して、ワークショップ/スチューデント・ワークショップは、会員の自主的な企画・運営によって、特定のテーマについて発表と自由な討論をし

ていただく場です。第26回大会では皆様のご協力により、６つのワークショップ/スチューデント・ワークショップが開催されました。第27回大会においても、11月14日（土）の午前９時30分から12時までをワークショップ/スチューデント・ワークショップにあてる予定です。

企画・運営を希望される方は、ワークショップ募集案内（学会ホームページに掲載されています）をご確認のうえ、**3月31日（火）24時（必着）**までに、同案内にて指定されたアドレスまで企画書と応募用紙を送信下さい。なお今大会より、**ワークショップも電子応募のみを受け付けることとなりましたので十分ご注意下さい**。

理事会・評議員会より

○　**会計**

2008年度収支中間報告書について事務局財務担当書記より説明があり、理事会および評議員会において承認されました。

○　**日本英語学会会則の改定について**

日本英語学会会則第10条に第４項を追加することが、第55回理事会にて決定されました。

第10条４　緊急事態の会長選出については理事会に一任する。　（2008年８月19日改定）

○　**役員の異動**

・会長（新任）

天野政千代前会長（名古屋大学）のご逝去に伴い、会長代理を務めていただいた原口庄輔氏（明海大学）が、上記条項に基づいて正式に会長に選出され、理事会および評議会において承認されました。任期は2008年８月19日から2010年３月31日までとなります。

・顧問（新任）

河上誓作氏（神戸女子大学）、千葉修司氏（津田塾大学）が、2009年１月１日より顧問に就任されました。

・評議員（退任）

昨年９月23日に大石強氏（新潟大学）がご逝去されました。ご冥福をお祈りするとともに、大会準備委員長、評議員として学会を支えてこられたご尽力にお礼申し上げます。

また、2009年３月31日付で野沢秀実氏（愛知学院大学）が退任されます。長い間評議員を務めていただき、有難うございました。

・評議員（新任）

石川一久氏（愛知学院大学）、田中智之氏（名古屋大学）、津留崎毅氏（明海大学）が新たに評議員として委嘱されます。石川氏と田中氏の任期は2009年４月１日から2010年３月31日まで、津留崎氏の任期は2008年９月１日から2010年３月31日までとなります。

○　**広報委員会の設置について**

2009年度より、広報委員会を新たに設置することとなりました。主な業務は、学会ホームページの管理、*EL*の電子アーカイブ化・ジャーナル化に関する作業、その他の広報活動、および学会アドレスの管理です。

編集委員会より

◇　**編集委員の増員について**

現在、編集委員会の定数は16名ですが、*EL*の投稿部門が多様化し、（以下に述べる）特別企画による*EL*の編集も試行される中、本年度より編集委員も新人賞応募論文の審査を担当するようになりました。このような状況に対応できるように、編集委員を５名増員して21名とすることが、第56回理事会にて承認されました。これにより、次期編集委員の選出においては、１期目と２期目の編集委員数にみられる不均衡を解消し、半数交替に近づけることが可能となります。さらに、各投稿分野に対して最低２名以上の編集委員を確保することも可能となります。

◇　***English Linguistics*第25巻２号（2008年秋号）の刊行および誤植のお詫び**

EL 25.2（秋号）が刊行されました。Article ２編、Notes & Discussion ３編、Review Article ３編が掲載されています。会員の皆様には、昨年12月下旬に送付されております。

なお、裏表紙および目次や（Author）Index において、下線部で示した箇所に誤植が生じましたことを深くお詫び申し上げます。

＜誤＞

Remarks on Chomsky's (2005) Analysis of Extraction from Subject ..... *Fuminori*

Matsubara 464

＜正＞

Remarks on Chomsky's (2008) Analysis of Extraction from Subject ..... *Fuminori Matsubara* 464

作成しました正誤表（errata）をこのニューズレターに同封しますので、お手元の*EL* 25.2（秋号）への添付をお願いいたします。また、この正誤表は、次号*EL* 26.1（春号）の奥付にも印刷される予定です。

電子版投稿・査読・校正体制は、段階を踏みながら試行され、順調に進んできていましたが、紙媒体とは異なるファイル管理の問題が明らかになりました。開拓社出版部編集課*EL*係と事務局・編集委員会とで協議し、今後、編集・校正のチェック機能をさらに高めるため、以下のような方策をとることを決定いたしましたので、お知らせいたします。

再校時に再校ゲラのpdfファイルに加えて、目次のpdfファイルも執筆者に送信して、各執筆者に論文タイトルの確認をお願いいたします。また、「投稿論文の審査結果通知から*EL*への論文掲載までの手順案内（2009）」をこのニューズレターに同封します。会員の皆様にはこの「手順案内」をお読みいただき、特に以下の留意事項を遵守いただきますようお願い申し上げます。

編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文に「手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記して下さい。なお、論文タイトル・論文種目が投稿時のものから変更となる場合には、その旨をメール本文に明記し、さらに添付ファイルの修正箇所申告用紙に必ず変更理由をお書き下さい。

◇ *English Linguistics*第26巻1号（2009年春号）の応募論文の査読結果について

EL 26.1（春号）に対する応募論文の査読結果は、次の通りです。なお、書評論文には「4ヶ月書き直し」はありませんので、「審査中」は該当しません。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
Article	7	*4	2	0	1
Brief Article	3	(*1)	0	0	3
N&D	4	1	3	0	0
書評論文	3	3	0	0	—
4ヶ月書き直し					
Article	4	1	2	1	—
N&D	0	—	—	—	—
合計	21	9	7	1	4

*4および(*1)という表記は、Articleとして投稿された論文のうち1編が、一次審査を通過し再投稿された際に、投稿部門がBrief Articleに変更され、再審査の結果、Brief Articleとして採用されたことを示す。

◇ *English Linguistics*第26巻2号（2009年秋号）への投稿について

2009年12月発行の*EL* 26.2（秋号）の原稿締切は、2009年4月1日（水）24時（必着）です。学会ホームページに提示されている「*EL*投稿規定（最新版）」、「電子版投稿用書式見本（最新版）」、「電子版投稿に関する情報（最新版）」を遵守し、「投稿論文の審査結果通知から*EL*への論文掲載までの手順案内（2009）」を通読して投稿いただきますようお願い申し上げます。

◇「特集テーマ」による論文の公募について

昨年12月に、*EL*編集の特別企画として、「特集テーマ」による論文の公募（事前エントリー方式）を行いました。「特集テーマ」による論文の公募とは、日本英語学会大会や国際春季フォーラム（あるいは他の学会）のシンポジウムやワークショップで、特定のテーマを設定して発表した講師らが、発表内容をそれぞれ論文にまとめ、その冒頭に全体を俯瞰したIntroductionを付して、企画代表者から一括投稿していただくものです。「特集テーマ」による論文の一括投稿は、各論文の概要とIntroductionからなる「事前審査用資料」を「事前審査申込書」と合わせて提出していただき、事前審査を通過した場合にのみ可能となります。

今回は試行として、昨年11月に筑波大学で開催された2008年度日本英語学会大会のシンポジウムの企画代表者の方に「特集テーマ」による論文の公募の案内をしましたところ、事前審査

申込が1件ありました。提出された事前審査用資料は、現在、編集委員会で審査中です。

今回の試行が軌道に乗りましたら、今後は定期的に学会ホームページにて「特集テーマ」による論文の公募（事前エントリー方式）案内を行う予定です。

大会運営委員会より

□ **大会運営委員会の構成**

昨年12月より大会運営委員会の構成は次の通りとなりました。

（委員長）加賀信広氏

（副委員長）水口志乃扶氏

（委員）石川一久氏、奥　聡氏（国際春季フォーラム実行委員長）、武田修一氏、内堀朝子氏、木口寛久氏、滝沢直宏氏（以上留任）太田　聡氏、塩原佳世乃氏、菊地　朗氏、中谷健太郎氏、鍋島弘治朗氏、藤井洋子氏（以上新任）

□ **第27回大会のシンポジウムの企画について**

現在準備が進行中です。詳しい内容は次号の『え～ごがく』（No.51）でお知らせいたします。

□ ***JELS* 26について**

JELS 26 は、現在、第26回大会運営委員長の田端敏幸氏に編集をしていただいています。第26回大会で購入の申し込みをしていただいた方には、3月末にお届けする予定です。

□ **第26回大会の報告**

第26回大会は、2008年11月15日（土）・16日（日）の両日、筑波大学において開催されました。本大会では、6つのシンポジウム、40の研究発表、6つのワークショップが行われました。大会2日間で509名の参加者があり、盛会裏に終えることができました。*JELS* 26 については208部の購入申し込みがありました。今回も各出版社から書籍の展示をしていただき、本大会では25社の展示がありました。大会運営を支えて下さった開催校の先生方や大会運営委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心より御礼申し上げます。また、今回も大会運営に関する貴重なご意見を多数いただき有難うございました。今後の大会運営の参考にさせていただきます。

「第6回（2008年度）日本英語学会新人賞」の選考結果

2008年8月25日に締め切られた2008年度日本英語学会新人賞には、昨年度より2編多く、phonology, syntax, semantics, historical linguistics, second language acquisitionという多岐な研究領域から6編の論文の応募がありました。2008年11月15日（土）に開催された新人賞最終選考委員会では、1次選考を通過した3編の論文について慎重に審議がなされました。その結果、新人賞受賞論文は選考されませんでしたが、縄田裕幸氏（島根大学）の“Clausal Architecture and Inflectional Paradigm: The Case of V2 in the History of English”が以下のような評価により研究奨励賞受賞論文として選考されました。1次選考および最終選考は、編集委員と理事（経験者）を主体とし、日本英語学会外部査読登録者にも選考委員を委嘱して審査が行われました。

総括的評価

“Clausal Architecture and Inflectional Paradigm: The Case of V2 in the History of English”は、英語の史的資料の詳細な事実調査に基づき、いわゆるV2現象と動詞屈折の豊かさについて、Rizzi（1997）の分離CP節構造を踏まえて実証的に分析した力作であり、中英語の動詞複数語尾の消失とV2の消失が同時期であるという相関特性を明快な論証により指摘し、分離CP節構造と主要部移動および形態的融合を用いてこの相関特性を理論的に説明することを試みた点に独創性が見られ、研究奨励賞受賞に値する。

なお、授賞式は本年4月25日（土）に奈良女子大学で開催される第2回日本英語学会国際春季フォーラムの開会式で行われます。また、受賞論文は本年6月に発行される*EL* 26.1（2009年春号）に掲載されます。

「第7回（2009年度）日本英語学会新人賞」論文募集のお知らせ

日本英語学会賞の新設に伴い、「日本英語学会新人賞の授賞に関する規程」の一部が改定され、

応募資格は39歳以下、副賞は５万円と改められました。2009年度日本英語学会新人賞には以下の要領でご応募下さい。

①締切日：2009年８月25日（火）24時（必着）
②送付先：shinjin-toko@kaitakusha.co.jp
③応募資格：締切日の時点で、39歳以下、または大学院修士課程修了10年以内の日本英語学会会員（非会員で応募希望の方は、締切日までに必ず学会支援機構（elsjkaiin@asas.or.jp）に入会手続きを済ませてから応募すること）
④応募論文の長さの上限：「*EL*投稿規定（最新版）」および「*EL*電子版投稿用書式見本（最新版）」に従い、（引用文献・脚注を含む）論文本体の長さは40枚（12,000語程度）以内

なお、応募に関する詳細については、学会ホームページに掲載される「新人賞応募に関する細則（最新版）」および「新人賞電子応募に関する情報（最新版）」をご覧下さい。

「日本英語学会賞」創設の趣旨

会長　原口　庄輔

故天野前会長の熱意によってこのたび創設された日本英語学会賞は、本学会が国際的にさらに発展していくために、学会の中核を構成している中堅層以上の優れた業績を顕彰するためのものです。本学会賞は受賞会員の国内外における学術活動の範囲と機会を広げ、ひいては本学会の存在意義を高めることを目的として創設されました。したがって、本学会賞は受賞した会員個人の名誉のためのみならず、学会全体の発展のためにも大きな意義を持つものです。

新人賞の対象年齢を越えたあたりから50～60歳代の会員は、所属大学や研究機関で教育研究上重要な役割を担っており、機関別認証評価、法人評価、その他の様々な個人評価において、自らの業績の質を証明する必要性に迫られています。学会賞がその１つの有効な手段であるにもかかわらず、本学会にはこの年代の会員を対象とする賞がありませんでしたので、本学会の中堅会員は学会賞を有する他学会の会員に比べて不利な立場に置かれていました。日本英語学会賞は、こうした現状を変えるために創設されたものです。

会員の皆様方には、以上の趣旨を十分ご理解いただき、自らの研究の質を高めることによって本学会賞に積極的にチャレンジし、ひいては学会全体の活性化に貢献されるよう期待しております。

「日本英語学会賞」募集のお知らせ

上記の趣旨説明にありますように、新人賞の応募資格の上限である39歳を越えた学会員の優れた業績を顕彰するために、日本英語学会賞が創設されました。以下の「日本英語学会賞の授賞に関する規程」に従って、被推薦者の経歴書に加えて、対象となる業績の概要と推薦理由書（いずれも600字程度）を添えて、**2009年５月31日（日）（必着）**までに応募して下さい。

日本英語学会賞の授賞に関する規程

（賞の設定）

第１条　日本英語学会（以下「学会」という）は、国際的な研究水準を満たし、英語学の諸分野における研究を刺激する、理論的・経験的論証に裏付けられた創造性に富んだ業績を顕彰するために、「日本英語学会賞」（以下「学会賞」という）を設定する。

（授賞）

第２条　会員は３名以上（評議員１名以上を含む）の連名で学会賞の推薦１件を行うことができる。推薦を行う会員は、毎年５月31日までに、被推薦者の経歴書、対象となる業績の概要、および推薦理由書を、PDFファイルとしてメールに添付して、学会賞応募用アドレス（award-obo@kaitakusha.co.jp）に送付する。会長が設置する「学会賞選考委員会」（以下「委員会」という）は、推薦された業績の審査に当たり、理事会の議を経て学会賞を決定する。

２．被推薦者は40歳以上とし、連続３年以上の会員歴をもつ学会員とする。
３．対象となる業績は、締切日の前年度に公表された図書や論文（複数可）とする。
４．授賞式は、日本英語学会の総会にて行う。
５．受賞者に対しては、賞状とともに、副賞（５万円）を贈呈する。

（推薦･選考）

第３条　第２条第１項の「推薦」および「委員会」に関する内規は、学会が別に定める。

（改廃）
第４条　この規程の改廃は、委員会の発議に基づく理事会の議決による。

附則　この規程は2008年11月14日より施行する。

2008年度収支中間報告

2008.10.1現在

【収入内訳】

2007年度より繰越	¥8,987,320
会費	¥4,342,000
大会参加費（春）	¥345,000
科研費	¥1,400,000
利息	¥6,921
雑収入	¥4,000
合計	¥15,085,241

【支出内訳】

EL 刊行費	¥2,394,430
NL 等印刷費	¥42,966
業務委託関係費	¥1,029,790
事務委託費	¥599,510
発送費	¥430,280
大会関係費（春）	¥391,286
印刷費	¥0
運営費	¥289,531
謝金	¥101,755
大会関係費（秋）	¥200,000
印刷費	¥0
運営費	¥200,000
謝金	¥0
委員会関係費	¥712,905
旅費	¥712,905
会議費	¥0
事務局関係費	¥1,405,793
賃貸料	¥0
人件費	¥1,321,500
通信費	¥14,395
消耗品費	¥25,567
謝金	¥0
交通費	¥0
資料コピー	¥0
その他	¥44,331
新人賞・特別賞費	¥0
記念品	¥0
副賞	¥0
賞状	¥0
JELS関係費	¥0
合計	¥6,177,170

事務局より

○　***EL*掲載論文の再録・登録に関するお願い**

*EL*に掲載された論文の著作権は本学会にあるので、他のジャーナルや著書に再録する場合には本学会の許可が必要です。また、大学及び他機関の学術レポジトリーや電子アーカイブへの登録や、個人のウェブサイトへの掲載は、発行後4年以上経過した論文についてのみ認められています。本学会の「情報管理規定」に基づく以上の注意事項は、*EL* 25.2（秋号）の奥付にも記されています。*EL*掲載論文の再録・登録のご希望をお持ちの方は、事前に事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）ご連絡いただければ幸いです。

○　***EL*の電子アーカイブ化について**

科学技術振興機構（JST）に申請していた*EL*の電子アーカイブ化が、昨年12月に決定いたしました。上記の「情報管理規定」に従って、本年6月以降に創刊号から*EL* 22.1（2005年春号）までの掲載論文がまず公開される予定です。なお、学会ホームページには*EL*のAuthor Indexが提示されていますので、電子アーカイブで掲載論文を検索する際にご利用下さい。

○　**外部査読者登録のお願い**

外部査読者リスト2008に登録をされた方を含めて、新たに本年3月には「外部査読者リスト2009への登録のお願い」を事務局より送信しますので、ご協力をよろしくお願いいたします。氏名の公開につきましては、本人のご希望を確認した上で、国際春季フォーラム・新人賞・*EL*への応募原稿・投稿論文の外部査読者名は*EL*に、大会発表への応募原稿の外部査読者名は*JELS*に、審査終了後に毎年公開いたします。外部査読を担当された方は、公開後であれば、個人の研究経歴や業績として公表可能となります。

○　**連絡先等変更のご連絡のお願い**

新人賞応募、研究発表応募、*EL*投稿の電子化に伴い、学会から会員の方々に電子メールで連絡する機会が増えています。つきましては、メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に

変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡いただき、電子版投稿・審査体制の下での学会運営にご協力いただきますようお願いいたします。連絡方法については、学会ホームページをご覧下さい。特に、3月から4月は変更が多い時期ですので、忘れずにご連絡をお願いいたします。

○　**学生会員の登録について**

2009年度に学生会員として登録を希望される方（今年度からの継続を含む）は、以下の要領でお申し出下さい。申告期間の終了直後に2009年度の会員種別を確定し、会費請求をさせていただきます。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますので、ご注意下さい。

◇申告資格：「学生」の意味を広義に解釈し、研究生･聴講生･専任の勤務を持たない大学院修了者、および外国の大学の日本校の学生も含まれるものとします。

◇申告期間：**4月1日より4月25日（必着）**

◇申告方法：会員番号･氏名･4月以降に在籍する学校の名称を記した用紙に、4月以降に学生であることを証明する以下の（1）から（4）のいずれかの書類を添付して、事務局宛（奥付参照）に「学生会員登録希望」と必ず朱書き上郵送して下さい。

（1）在籍する学校の発行する在学証明書
（2）学生証のコピー
（3）進学する学校･課程の合格通知のコピー
（4）指導教員（所属明記）の署名（捺印）と説明の言葉

なお、専任の勤務を持たない大学院修了者は、元指導教員（あるいはそれに相当する立場の教員）に説明の言葉を書いてもらい、それに署名（捺印）してもらったものを提出して下さい。

いずれの場合も必ず封書でお願いします。なお、申告された後に事情の変更が生じた場合には、事務局にお申し出下さい。また、何か不明な点がある場合にも、事務局までご連絡下さい。

○　**会費納入のお願い**

今年度の会費をまだ納入されていない方は、学会支援機構から送られた振込用紙で至急納入いただきますようお願いいたします。会費を2年間滞納されますと、会員規定第3条第4項により自動的に退会扱いになりますのでご注意下さい。

編集後記

原口会長の就任に伴い、来年度には新事務局が発足することになりましたので、現事務局の任期は本年3月末までとなりました。

現事務局では、故天野前会長の強力なリーダーシップの下、国際春季フォーラムの開催、日本英語学会賞の設立、*EL*投稿・研究発表応募・新人賞応募の電子化、*EL*の電子アーカイブ化など、様々な改革を行ってきました。任期中に会長の交代という緊急事態がありましたが、役員の先生方や会員の皆様の温かいご支援とご協力のおかげで、何とか2年間務めることができました。

この4月より原口会長の下、以下のメンバーで新事務局が発足します。

事務局長：岡崎正男氏（茨城大学）
編集委員会・新人賞・理事会書記：
大竹芳夫氏（新潟大学）
松岡幹就氏（山梨大学）
大会運営委員会・評議員会書記：
今野弘章氏（高崎健康福祉大学）
財務・国際春季フォーラム担当：
和田尚明氏（筑波大学）

新事務局にも、これまでと変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

（田中、水野、横越、中川、若山）

2009年1月31日発行
編集・発行　日本英語学会
代表者　原口　庄輔
発行所　日本英語学会
http://wwwsoc.nii.ac.jp/elsj/
〒113-0023
東京都文京区向丘1-5-2
開拓社内
電話（03）5842-8900

古紙配合率70%再生紙を使用しています